

平成 28 年度 木育マイスター育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

- 事業概要 -----2
- 事業スケジュール -----3
- プログラムの作成
 - プログラム作成 -----4
 - 研修日程の設定 -----4
 - 現地情報の収集 -----5
 - 受講生の募集と選定方法 -----5
- 研修会の実施
 - 第 1 回 -----6
 - 第 2 回 -----8
- O J T の実施 -----10
- まとめ -----15
- 添付資料 -----16
 - ①OJT 自己評価シート
 - ②アンケート集計



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは 6 つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

留萌地域を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月下旬）と後半（10月下旬）の2回行った。OJTは、9月下旬から10月に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成28年度の第7期生として24名の木育マイスターが誕生することとなる。

・本事業における業務

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて、研修会を行う。

3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。



●事業スケジュール

■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

6月下旬～7月中旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月26日	受講生募集の広報開始
8月19日	応募締切・選定
7月中旬～9月中旬	第1回講座関係団体と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月25日-26日	第1回講座
9月中旬～10月下旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月29日	OJT第1回目実施
10月29日	OJT最終回実施
10月30日-31日	第2回講座



●プログラムの作成

■プログラム作成

テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2016/9/25(日)～26(月)

【9/25】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00		開会式				小平町 ゆうゆう そう
10:30～ 12:00	5章1	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	
12:00		昼食				
13:00～ 15:30	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育が生まれた背景と 現在の位置づけ	2.5H	
15:30～ 17:30	2章	木とふれあい、木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2H	

【9/26】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 12:00	2章	木とふれあい、木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴 林業体験	3H	落田林産
12:00		昼食				
13:00～ 15:00	2章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業・木材産業の今	2H	留萌地区 間伐材 生産加工 組合
15:00～ 17:00	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	煙山 泰子	木工体験	2H	小平町 ゆうゆう そう

◆第2回目 2016/10/30(日)～31(月)

【10/30】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:00～ 15:00	5章 2-3	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2H	小平町 ゆうゆう そう
15:00～ 17:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子供の発達の特徴と 過程、人を癒す木の働き	2H	

【10/31】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.5H	小平町 ゆうゆう そう
11:30～ 12:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りで 大切にしたいこと	1H	
12:30		昼食				
13:30～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎、 模擬演習	3.5H	

■現地情報の収集

現地情報の収集は当法人のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～27年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。研修会場である小平町では小平町地域おこし協力隊にご協力いただき、研修会場や周囲の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と当法人のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「木育ファミリーメーリングリスト」や「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。定員20名に対して57名の応募があり、急遽定員を増やし、抽選により25名の受講生を決定した。後日、一人辞退されたため、24名での研修となった。

●研修会の実施

■第1回目 平成28年9月25日-9月26日

◆1日目(9/25) 小平町ゆうゆうそう 受講者数:24名

10:15 開会式

10:30 体験学習の理解

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

学習の種類と時間軸についての説明を受けた。事柄の多様性を学ぶ横の時間軸と、事象の関係性を学ぶ縦の時間軸があるが、マイスター研修では関係性をより深く知るため、縦の時間軸で学習を進めていく。

体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にもものを伝えるための手法を学んだ。

12:00 昼食

13:00 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例やプログラムの実例を紹介し、木育の幅広さを認識した。

木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。

15:30 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

森とは何か？森の色々な見方について説明があった。生態的(空間利用)、経済的(森林資源利用)、社会的・文化的(地域環境保全、里山)の3つの価値観から見て、バランスを取ることが大事と学んだ。原生林、人工林、二次林、天然林の違いや、針葉樹、落葉樹、広葉樹、常緑樹についての説明があった。



また、外に出て会場裏の森を見て、その森が現在の姿に至るまでの遷移を考察し、その場所と人と歴史と森には深い関わりがあることを学んだ。

17:00 終了

◆2日目(9/26) 小平町ゆうゆうそう 受講者数：24名

9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

北海道の森林を実地で学ぶため、小平町内の落田林産で森を観察した。広葉樹と針葉樹の違い、単葉や複葉の違いなどを実際に目で見て触れることで、深い学びとなった。

また、午後の木工体験で使用する木を自分たちで伐採する体験をした。樹種によって、匂いや木肌や切りやすさに違いがあることを実体験できた。



12:00 昼食

13:00 木と生きる～暮らしと産業～

(留萌地区間伐材生産加工組合)

森の木が木材になる過程を理解するために、苫前町の留萌地区間伐材生産加工組合で、切り出した丸太の皮をむき、板にしていく製材の現場を見学した。

留萌地区間伐材生産加工組合では、丸太の皮をむき、防腐処理を施した時点で出荷する場合も多く、製材所にも様々なタイプがあることを学んだ。この工場では昔ながらの機械と、人の手による製材が行われており、製材の過程がよくわかった。



15:00 木と生きる～暮らしと産業～

(KEM 工房 煙山泰子)

実際に自分たちで木に触れて、ものづくりすることの楽しさを学ぶため、木工体験を行なった。

午前中に山で伐ってきた木を使い、生木を加工するグリーンウッドワークの手法で、小さな家、ぶんぶんごまを作った。自分で木を切り、削り、穴を開け、色を塗り、ものを作ることで、木に触ることやものづくりの楽しさ、達成感を実体験として学んだ。



17:00 終了

■第2回目 平成 28 年 10 月 30 日-10 月 31 日

◆1 日目 (10/30) 小平町ゆうゆうそう 受講者数 : 24 名

13:00 木育はつながりのキーワード
～プログラムの伝え方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

より効果的な伝え方や指導法を学ぶための講義を受けた。受講生一人一人の OJT の体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

また、プログラム参加者に質問を繰り返し、それに応じて質問のレベルを上げ下げして、最終的な目標にたどり着く、「質問力」の重要性を学んだ。



15:00 木と生きる～人の成長と木との関係～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが大事だが、都市化社会ではその3つの歯車がかみ合っていない。歯車がかみ合う、多様な自然の中で育つことの大切さについての話があった。また、マズローの欲求理論や、エアーズの感覚統合の理論、インクルーシブ保育などの紹介があり、受講生が今後活動していく上で指針となりうるような示唆、気づきがあった。



17:00 終了

◆2 日目 (10/31) 小平町ゆうゆうそう 受講者数 : 24 名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどういう存在かについて説明があり、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識した。木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があった。

また、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。

昔から、木の道具を作る際、材料となる木が材質によって使い分けられてきたことを学んだ。



11:30 木育はつながりのキーワード

～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

木育プログラム、企画を組み立てる際に重要な、コンセプト(主旨、ねらい)づくりについて学んだ。

自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大事なことや、企画・実施・評価を繰り返して、フィードバックしていくことでよりよいプログラムができていくことを学んだ。

また、プログラムを実施する際の導入から本体、まとめの流れについて、人の興味を引き、飽きさせない手法についても教わった。



12:30 昼食

13:30 木育はつながりのキーワード

～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムづくりの実践として、受講生自身が現在行っている活動等に関連して、取り組みたいテーマを提案してもらい、そのテーマについてグループワークにより5つのプログラムの企画・発表をした。

最後は各自の「木育宣言」をひとりひとりが読み上げ、全4日間の研修のまとめとした。



17:00 終了

●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地域、道東地域、道南地域）で計20個のOJTを設定し、そのうち14個のOJTに参加があった。OJT実施に当たっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
1	10/1(土)	まるやま 自然学校	札幌市中央区 (旭山記念公園)	大人・子どもを対象とした、まきわり・クラフト体験などの木育プログラムの補助をする	0
2	10/2(日)	まるやま 自然学校	札幌市中央区 (旭山記念公園)	就学児未満の親子を対象とした木育プログラムの補助をする	0
3	10/25(火) 10/26(水)	ようてい木育 倶楽部	札幌市中央区 (札幌地下歩行空間)	北海道主催の「木育ひろば in チ・カ・ホ」というイベントで、大人・子どもを対象としたクラフト体験などの木育プログラムの補助をする	4
4	10/29(土)	苫東・和みの森 運営協議会	苫小牧市 (苫東・和みの森)	大人・子どもを対象とした、薪づくり・クラフト体験などの木育プログラムの補助をする	1
5	毎週火曜日	まるやま 自然学校	札幌市 (円山動物園)	小学生のアフタースクールで木育プログラムの補助をする	3
6	毎週水曜日	いぶり自然学校	苫小牧市 (ひかりの国幼稚園)	苫小牧市内の幼稚園で木育プログラムの補助をする	1
7	9/29(木)	木育マイスター (木村)	東川町 (キトウシ森林公園)	滝川の大学生を対象とした、森林整備と道づくりプログラムの補助をする	2
8	10/5(水)	木育マイスター (木村)	東川町 (キトウシ森林公園)	大阪の高校生の修学旅行における、森林整備と道づくり、クラフト体験プログラムの補助をする	1
9	10/15(土)	木育マイスター (木村)	東川町 (キトウシ森林公園)	幼児から大人までを対象とした森遊びや、市民参加型の森林整備プログラムの補助をする	4
10	10/18(火)	大雪山 自然学校	東川町 (キトウシ森林公園)	東川町民を対象とした森林ウォーキングプログラムの補助をする	2

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
11	10/29(土)	木育マスター (木村)	東川町 (キトウシ森林公園)	東川町の学童保育に通う小学生を対象とした、 森林体験プログラムの補助をする	4
12	10/16(日)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐくむ)	「はぐくむ秋まつり」で、木育体験プログラムの 補助をする	2
13	10/19(水)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐくむ)	小学生を対象とした、森の体験プログラムの補 助をする	2
14	10/29(土)	木育マスター (日月)	帯広市 (とがちプラザ)	イベントでの、「森のお仕事体験」ブースの運営 の補助をする	0
15	10/2(日)	木育マスター (萩原)	弟子屈町	小学生を対象とした、森での野外活動、木育ひ ろばなどの木育プログラムの補助をする	0
16	10/2(日)	木育マスター (水口)	標津町	子ども・大人を対象とした、森での遊びや暮らし をテーマとしたイベントでの木育プログラムの補 助をする	0
17	10/29(土)	木育マスター (萩原)	弟子屈町	子ども・大人を対象とした、プレーパークなどの 木育プログラムの補助をする	0
18	10/7(金)	木育マスター (丹羽)	七飯町	幼稚園児の親子対象の、自然観察などの木育 プログラムの補助をする。	0
19	10/9(日)	木育マスター 道南支部	七飯町	木育マスターが主宰する木育イベント「木育フ ェスタ」の補助をする	3
20	10/15(土)	木育マスター (丹羽)	函館市	函館シーポートプラザで行われる木育教室のイ ベントの補助をする	2

3. 10/25 (火)、10/26 (水) 10:30~18:00

講師：ようてい木育倶楽部 斉藤文美

場所：札幌市地下歩行空間

参加者：大人 20 名程度

OJT 受講者：石井崇之、大江裕子、小原純平、
工藤恵利

内容：大人・子どもを対象とした森林環境教
育、クラフト体験



4. 10/29 (土) 9:00~15:00

講 師：苫東和みの森運営協議会
場 所：苫小牧市 苫東・和みの森
参 加 者：子ども・大人とも多数
OJT 受 講 者：澤田佳代子
内 容：子ども～大人対象のプログラム
おちばようちえん、クラフト体験



5. 毎週火曜日 (10/4、10/11) 14:00~18:00

講 師：まるやま自然学校
高野克也、富田桂太
場 所：札幌市 円山動物園
参 加 者：子ども約7名
OJT 受 講 者：岩田恵子、大江裕子、加藤恵子
内 容：子ども対象のプログラム
アフタースクールでの木育
プログラム



6. 毎週水曜日 (10/26) 13:00~17:00

講 師：NPO 法人いぶり自然学校
場 所：苫小牧市 ひかりの国幼稚園
参 加 者：子ども約20名
OJT 受 講 者：鶴田恵利
内 容：幼稚園児対象のプログラム
もりのようちえん



7. 9/29 (木) 10:00~13:00

講 師：木育マイスター 木村恵巳
場 所：東川町 キトウシ森林公園
参 加 者：大学生42名
OJT 受 講 者：長島弘幸、中村純夫
内 容：大学生対象のプログラム
自然散策、里山づくり、
遊歩道作り



8. 10/5 (木) 9:00~17:00

講 師：木育マイスター 木村恵巳
場 所：東川町 キトウシ森林公園
参 加 者：高校生（修学旅行生）多数
OJT 受 講 者：山村正彦
内 容：高校生対象のプログラム
森林散策、道づくり



9. 10/15 (木) 9:00~16:00

講 師：木育マイスター 木村恵巳
場 所：東川町 キトウシ森林公園
参 加 者：子ども10名、大人8名程度
OJT 受 講 者：小山靖幸、中嶋佑輔、中村純夫、
原野知有紀
内 容：幼児～大人対象のプログラム
森あそび、道づくり、クラフト体験



10. 10/18 (火) 9:00~12:30

講 師：NPO 法人大雪山自然学校
場 所：東川町 キトウシ森林公園
参 加 者：大人13名
OJT 受 講 者：中村純夫、西中まゆみ
内 容：大人対象のプログラム
森林ウォーキング



11. 10/29 (土) 9:00~12:00

講 師：木育マイスター 木村恵巳
場 所：東川町 羽衣公園
参 加 者：子ども18名
OJT 受 講 者：大須賀一馬、小原純平、佐野愉架、
森彩花
内 容：子ども対象のプログラム
学童保育の小学生に対する、
森林体験プログラム



12. 10/16 (日) 10:00~15:00

講師：木育マイスター 日月伸
場所：帯広市 帯広の森はぐく一む
参加者：子ども、大人とも多数
OJT 受講者：高橋清明、中嶋佑輔
内容：子ども～大人対象のプログラム
「はぐく一む秋まつり」での
木のものづくり、丸太切り体験



13. 10/19 (水) 9:00~12:00

講師：木育マイスター 日月伸
場所：帯広市 帯広の森はぐく一む
参加者：子ども 78名
OJT 受講者：沖田一生、森彩花
内容：小学生対象のプログラム
森林体験プログラム



19. 10/9 (日) 8:00~16:00

講師：木育マイスター 道南支部
場所：七飯町 流山温泉
参加者：大人、子ども合わせて 600 人程度
OJT 受講者：大久保佳美、澤田佳代子、
目黒さおり
内容：子ども～大人対象のプログラム
道南木育フェスタで、クラフト体験



20. 10/15 (土) 9:45~11:15

講師：木育マイスター 丹羽敬介
場所：函館市 函館シーポートプラザ
参加者：子ども 8名、大人 5名
OJT 受講者：秋田雅樹、丹羽柚樹
内容：子ども～大人対象のプログラム
クラフト体験



●まとめ

・受講人数について

平成 28 年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、3 倍近い 57 名の申し込みがあったため、急遽定員を 5 名増やし、抽選で 25 名に絞り受講者を決定した。一名の受講生が、研修当日に辞退されたため、研修カリキュラムを修了した受講者は 24 名となった。

・会場について

留萌地域の小平町で実施した。留萌地域はあまり林業が盛んではないため、見学に適した工場が近くになく、会場から遠い工場を見学した。アンケートでは「移動時間をもったいない」という声もあった。

遠方からの参加者も多かったため、宿泊される方も多かった。研修会場は、そのまま宿泊できたのでその点では利便性は高かったが、大浴場がなく、不便な点もあった。アンケートでは、場所はわかりやすかったが、狭かったという声もあった。

・研修時期について

講座は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 10 月）に実施した。OJT は 1 回目と 2 回目の間（9 月末～10 月下旬）に行い、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。ただ、木育マイスターにとって不可欠な、「森林と木材がメビウスの輪のような関係である」という概念を理解してもらえよう、様々な分野の講義・実習・見学を盛り込んでいるため、一つ一つの分野にかける時間がどうしても短くなり、講義時間が「短かった」と回答した人も多かった。

・今後の木育について

平成 22 年度から実施されている本研修であるが、22 年～27 年で、合計 176 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 24 名のマイスターがそれに加わり、合計 200 名となる。木育マイスター 1～6 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となっていたいたり、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度の 7 期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今後、さらに北海道の木育の普及を推進していくためには、この 7 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。また、アンケートにも希望があったが、木育マイスターとなった後のフォローアップも重要である。

今年度も前年度も、研修には定員の 3 倍近くの申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があると考える。